

1 はじめに

本校は、小規模校のよさを活かした異学年交流活動の可能性の探究と自治的活動の活性化に向けて取り組んでいる。少人数だからこそ成し得る「一人一人が Only One の存在として輝く」という本校の教育目標の具現化を目指している。

2 資料

(1) あいさつ運動

右の写真は正門前で、プラカードや旗をもって、元気よくあいさつをしている様子である。本校では、学年を問わず互いを尊重し合う豊かな心の育成に力を入れており、このため、出会った人にあいさつをする習慣が身に付いている。



(2) 体育祭

今年度は、人数の減少にともない、全校生徒を赤組と青組に分けて異学年交流チームによる体育祭を行った。種目ごとに生徒を競技者と係の担当に分け、それぞれの組の話合いによって分担を決定した。学年を越えて生徒同士が関わり、協力して体育祭を成功させようという取組は生徒一人一人の活躍で成り立ち、それと共に自己有用感が高められた。



(3) スクールキャラクターの制作

今年度、地域に愛される平沢中らしいシンボルマークをつくろうと生徒全員による原画募集を行い、投票によって候補を絞り、スクールキャラクターを制作した。図は、本校のスクールキャラクターである「ひらポン」の誕生までの過程である。それぞれの原画のよさを生かしながら完成に到った。また、のぼりやマスコット人形を飾ったり、缶バッジを作って職員や生徒、地域コミュニティに配布して身に着けたりすることで達成感や一体感を味わうことができた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・生徒一人一人が活躍できる場をつくることができた。
- ・生徒が主体的に活動することで生徒の自己有用感が高まった。

(2) 課題

- ・少人数であるため、活動内容を制限する場合がある。
- ・行事等において生徒一人一人の負担が大きくなっている。
- ・来年に向け、生徒会組織の縮小を図った。



オリジナル缶バッジ